

侵入者との闘い、そして和解へ……

「コンピューター、愛してるわけじゃないですよ」

プロダクトデザイナーの酒井俊彦さんはくすりと笑ってそう言った。

「僕にとっては仕事で使うただの文房具。自宅には置きたくないものですよね」

「どうして？」そう訊ねると、酒井さんは、

「家のなかに汚いものがあると嫌じゃないですか」ときっぱり答えた。

「きれいなデザインのコンピューターでも、それをそのまま家庭に持ち込むと暴力的に感じるんですよ」

パソコンは文字どおりパーソナルなもの。一人の人間がむかい合うマシンだから、生活をする場所にはどうしたってそぐわない。独り暮らし



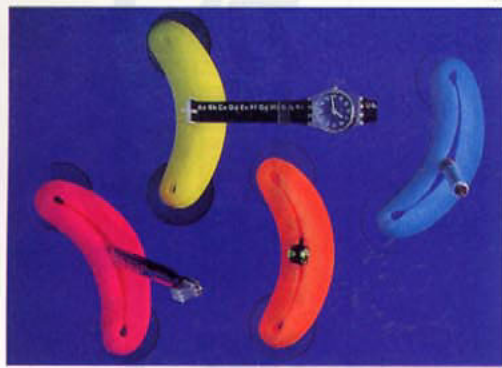
酒井さんがデザインしたフロッピードライブ。

をしているとか、書斎にでも置くのならともかくと酒井さんは説明した。

「テレビのコマーシャルで、みんな楽しくインターネットなんてやってますけど、実際には、まだそこまで行ってないでしょ」

でも、酒井さんがいくらかそう言っても、コンピューターは少しずつ暮らしのなかに侵入をはじめた。一部の人にしか使えなかったややこしい機械は、ずいぶんと進化して、誰もが使える道具に近づいた。あつたら便利じゃない？ みたいなところまでやって来たのだ。

結局、リビングルームに異物感たつぷりに存在するコンピューターに我慢のならない酒井さんがしたことは家具のデザイン。



ポップなフック「Smile!」。これも酒井さんのデザイン。

「多少なごめるようにと思って」

革で覆われたサイドボードと明るい木の天板のラックは、とても柔らかい感じがして、可愛いものだった。コンピューターにつきもののオフイスな感じがずいぶん拭かれる。

「これならリビングの隅にでも置けるかな、誰かがテレビ見ても、音楽聴いても、邪魔な感じがしないだろうと思って。実は、もうすぐ引越す予定なんですけど、そうしたらコンピューター置こうと思ってるんです」と酒井さんは言った。そしてため息まじりに、

「ほんとはコンピューターそのものをデザインしたいんですけどね」とつけくわえた。



左利きだけどマウスは右手。「最初のパソコンがこうだったから」



酒井さんは今の電話機も嫌い、家には置いてない。頑固者です。